

## 〔17年11月号月報の概要〕

### 1 市場動向の概要随時

#### (1) 野菜

##### 9・10月の実績

・9月の入荷量は前年並、価格は前年比94%。10月上旬の入荷量は前年をやや下回り、価格は前年比1割減。中旬は入荷量が大幅に上回り、価格は4割減となった。

・10月に価格が前年より高かった品目：生しいたけのみ

##### 11月の見通し

・だいこん、にんじん、はくさい、ねぎなど多くの品目は、価格が前年を大幅に下回る見込み。

#### (ねぎ)

・東北産が終盤をむかえ、関東産の入荷が本格化し市況をリードする。入荷量は前年並、価格は主力産地の作柄が良好で11月以降も順調な入荷が予想されることから上げ相場とはいかない見込み。

#### (2) 果実

##### 9・10月の実績

・9月の入荷量は前年比6%増、価格は前年並。10月上旬の入荷量は前年並、価格は前年比2割減、中旬は入荷量が大幅に上回り、価格は前年比2割減となった。

・10月に価格が前年より高かった品目：りんごの「あかね」のみ

##### 11月の見通し

・みかん類、りんご類、かき類が中心に出回る。

・入荷量は全般に前年を大幅に上回り、価格は前年を下回る見込み。

#### (りんご類)

・青森産、山形産、長野産、岩手産が出回る。台風被害のあった前年より入荷量は1割増、価格は入荷増により前年比1割減の見込み。

#### (西洋なし)

・山形産中心となる。生育はやや遅れがあるものの概ね順調、平年並からやや豊作傾向となっている。入荷量は台風被害のあった前年より4割増、価格は入荷量増と前年高値だったことから前年比2割減となるが、平年比ではやや上回る見込み。

#### (かき類)

・福岡産、和歌山産、奈良産、新潟産、岐阜産が出回る。入荷量は台風被害のあった前年より35%増の見込み。価格は入荷量増と前年高値だったことから前年比2割減の見込み。

#### (3) 花き

##### (10月入荷状況)

・特に物日がなく、ブライダルなどの業務・小売もあいにくの天候が続いたため期待したほどの取引とならなかった。入荷量も不安定で、価格は高冷地物が暖地ものよりやや高いといった状況。

##### (11月見込み)

・昨年は台風の被害を受け入荷量が減少したが、今年は被害がなく、全般的に潤沢な入荷となる見込み。産地も暖地への切替がすみ品質も徐々に向上してくる見込み。原油高の影響を受け暖房費のかけ増しを嫌う生産者も多くいると見られ、一部品目で品薄高を予想する卸会社もある。

### 2 輸入青果物の品目別累計速報

・17年8月までの入荷実績は、生鮮野菜では数量ベースで前年比131%、金額ベースで107%。生鮮果実では数量ベースで前年比98%、金額ベースで100%となっている。

### 3 消費地からのホットニュース、トピック

#### (1) りんご類主要品種別、数量単価の推移

#### (2) 全国漬物売上金額ランキング

#### (3) キノコ類の生産と価格動向

#### (4) 野菜、果実類の年間購入量の推移

#### (5) 県オリジナルりんご「山園A1号」流通業界からも熱い視線

#### (6) 首都圏の実需者と消費者に山形の地域特産物を紹介